

令和2年（2020年）10月28日（水曜日）

市長が「反対」意見書

三島駅南口東街区開発 住民投票条例案を審議

三島市議会臨時会

三島市議会臨時会が27日開会し、会期を30日までの4日間と決めた。市長の請求による「JR三島駅南口東街区再開発事業に関する住民投票条例制定案」を審議した。豊岡武士市長が「反対」の意見を

書を出し、市議11人が質疑を行った。質疑の中で、議案に記載された投票の選択肢（2択）の一つである「都市計画決定を1年延期し、市民の意見をとり入れて見直す」に関連し、市は都市計

画決定で「詳細な事業の内容全てを定めるのではなく、街づくりの内容を決定し、街づくりの内容を定める」とし、豊岡市長は「地下水検討委員会は（三島駅南口周辺開

ルールが決まる。決定後に意見を聞くことが重要」とした。同事業の地下水への影響に関する質問に対し、市は「保全対策を進める」とし、豊岡市長は「地下水検討委員

会が発地下水対策検討委員会）で適切な検証をする」と述べた。同議案は委員会付託され、本会議終了後の総務委で審議された。総務委は28日にも開かれる。30日の本会議で採択される。

三島市 「離隔がある」が方針 建設工事の地下水影響で回答

JR三島駅南口東街区再開発事業の地下水への影響に関するNP法人グラウンドワー

ク三島（GW三島の地下水水位の間隔（離隔）質問状に対し27日までと安全性の関係に関するGW三島の質問に対するGW三島の質問に対する、三島市は「離隔が

設けられていることをもって判断している」と答えている。

質問状の中でGW三島は、同東街区では高層ビルの建設に関し「3・56メートル」とした離隔が、同西街区の事業と違うことを「同じエリアでの異なる建築方針」と指摘した。

三島市は、同西街区の事業では「10以上の離隔だった」が、地下水位までの「距離が離れている（距離の長さ）ではなく、離隔がある（ことを方針とした」とし、同東街区の事業との「矛盾には当たらない」と述べている。

GW三島の渡辺豊博専務は「専門家の意見を聞き、地下水の安全性に関する具体的な数字による明確な回答を求め、追加質問したい」と話している。